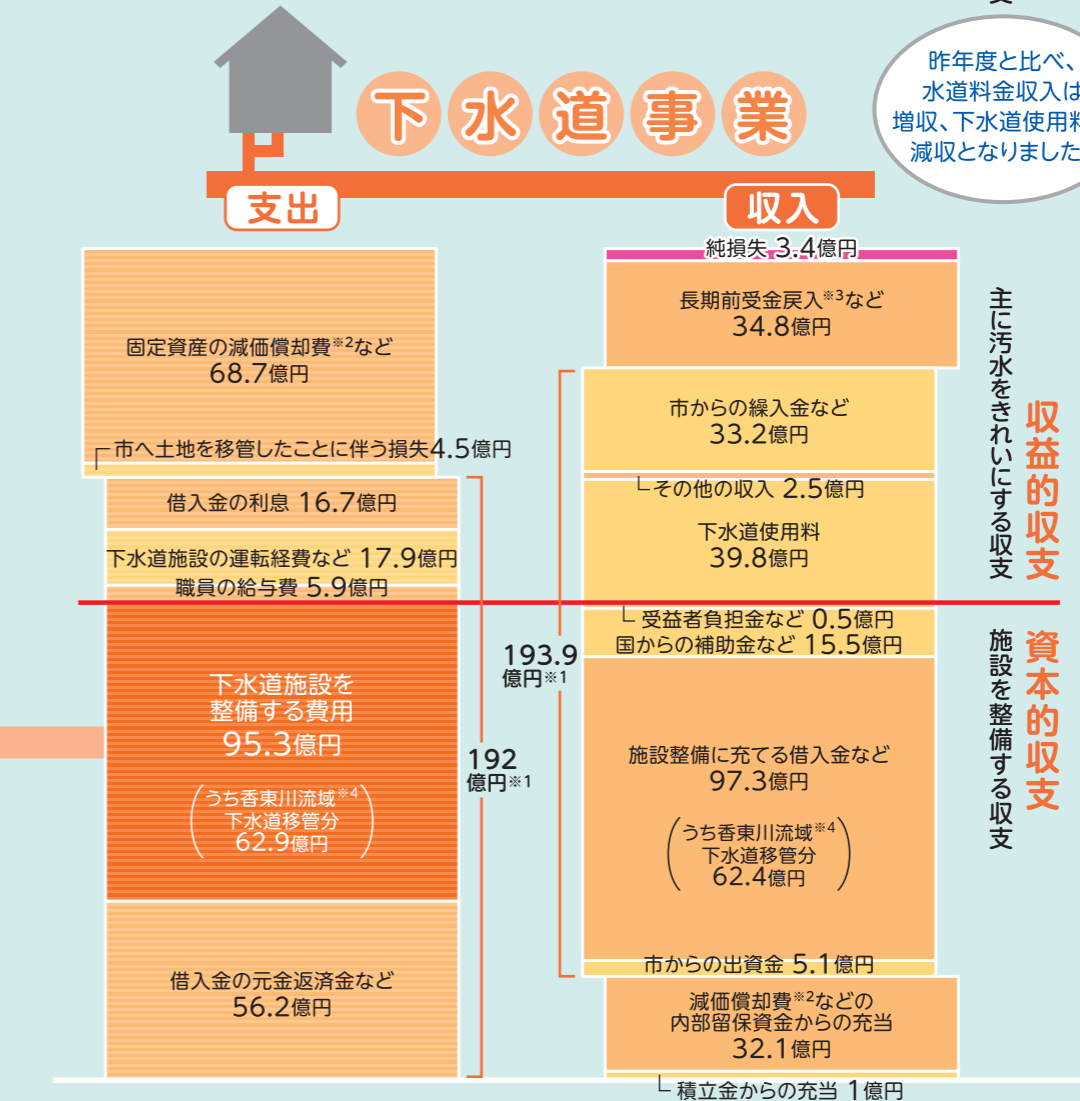
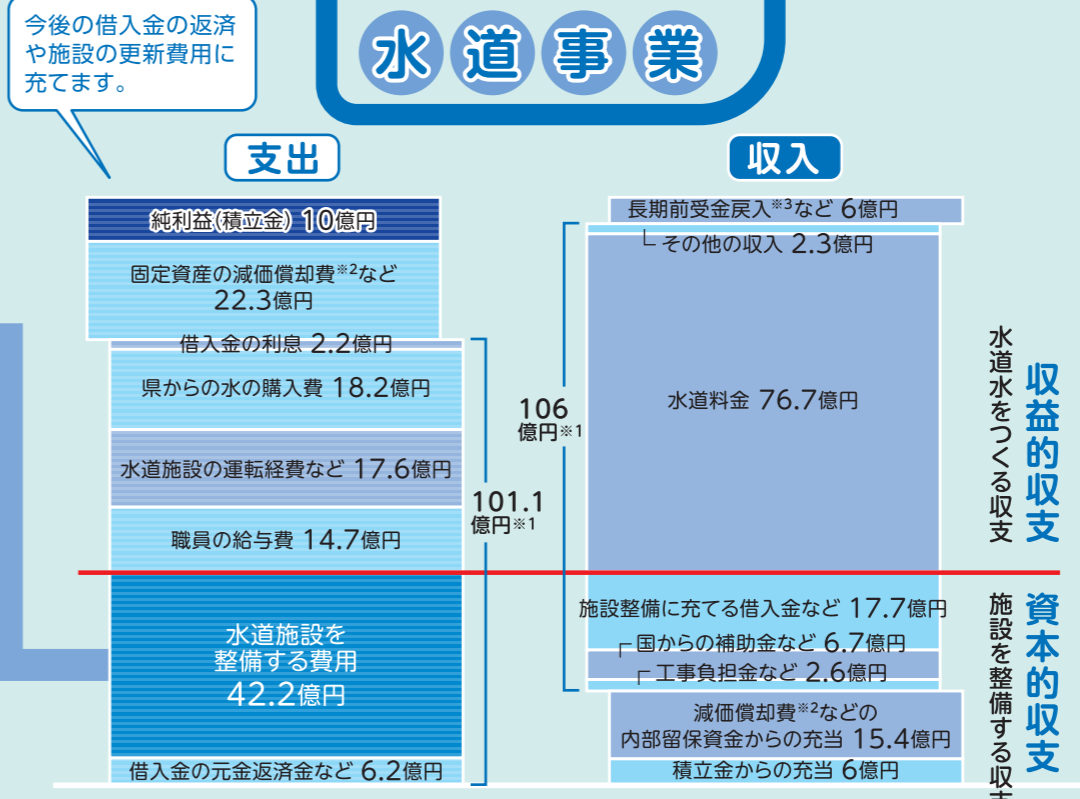


# 高松の水道・下水道

## 決算報告 ～平成28年度～

### 水道事業



## 主な施設整備

高松市上下水道局では、将来にわたって健全で持続可能な企業経営を目指すため、「高松市上下水道事業基本計画」を策定し、基本理念と6つの基本方針に沿った事業運営を行っています。

平成28年度では、浄水場設備の更新や、汚水管の新設を行うことで、安全で快適な生活の提供を目指すとともに、南海トラフ地震や台風などの災害時でも、安心して使える上下水道の実現に取り組みしました。

### 高松市上下水道事業基本計画 (高松市上下水道ビジョン)

「安心して、いつでも、いつまでも使える上下水道」を実現するための目標を定めています。

#### 6つの基本方針

- 経営基盤の強化** 財政健全化、人材育成など
- お客さまサービスの向上** 広聴制度や受付窓口の充実など
- 安全で安定した水道水の供給** 浄水施設や配水管の整備など
- 快適で安心な生活環境の提供** 下水道施設や管路の維持など
- 危機管理対策の強化** 上下水道施設の耐震化など
- 環境・エネルギー対策の推進** 再生可能エネルギーの活用など

### 安全で安定した水道水の供給

#### 川添浄水場中央監視制御設備更新工事

川添浄水場の運転管理全般を統括する中央監視制御設備は、設置から20年以上が経過し、一部のシステムに不具合が生じていたため、中央監視制御設備とそれに付随する場内設備の各制御盤を更新しました。これにより、安定した浄水処理を長期にわたって行うことができます。

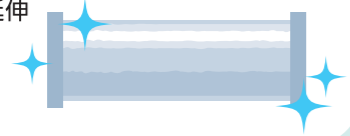


▲更新後の中央監視制御システムPC

### 快適で安心な生活環境の提供

#### 香川第1処理分区污水管工事

香川町大野と川東下において、衛生的で快適な生活環境を整えるため、污水管の布設工事を行っています。平成28年度は、国道193号沿いに約1.1kmの污水管を布設しました。国道193号沿いの污水管の整備は、今後も南に延伸していく予定です。



### 危機管理対策の強化

#### 老朽管布設替え(耐震化)工事

地震による管路の被害や断水範囲の低減を図るため、平成28年度は浅野浄水場から市内中心部に延びる基幹管路や香川町、国分寺町などで、老朽化した管の取替えにあわせて耐震性のある水道管を10,504m布設しました。平成28年度末の基幹管路の耐震化適合率は、39.19%になりました。(平成27年度末の全国平均:37.2%)

#### 福岡ポンプ場増設工事

雨水ポンプ場では、雨水をくみ上げて川や海に放流することで、道路の冠水や建物への浸水を防ぎます。



▲増設した雨水ポンプ(口径1,500mm)

平成28年度は、福岡ポンプ場の増設工事が完了し、揚水量(ポンプが吐き出す水の量)が、563m<sup>3</sup>/分から1,191m<sup>3</sup>/分になり、雨水排水能力が大きく向上しました。

#### 西部バイパス幹線工事

中心市街地の西部地区において、浸水被害の軽減・解消を図るため、雨水幹線の整備を行っています。この工事は、シールド工法(地下鉄などのトンネル築造と同様の工法)により、直径3mの雨水幹線を日新小学校跡地(瀬戸内町)から姥ヶ池公園(宮脇町)までの約2kmを整備するものです。



▲立坑の築造現場

雨水幹線の完成は、平成31年度末を予定しており、平成28年度は、シールド掘削機を発進するために必要な、立坑(たてこう)と呼ばれる深さ約18mの縦穴の築造を行いました。

中心市街地東部地区の浸水対策は、福岡ポンプ場増設工事のしゅん工によりおおむね完了し、今後は西部地区の施設や管路整備を進めていきます。

昨年度と比べ、水道料金収入は増収、下水道使用料は減収となりました。



平成28年度の水道事業は、香川用水の取水制限が44日間実施された影響により、配水量は前年度を下回りました。しかし、給水栓数の増加等により水道料金収入が増加し、純利益を生じています。

一方、下水道事業は、大口使用者の減少により下水道使用料が若干の減収となりましたが、市からの繰入金を得て、雨水処理費用の全額と汚水処理費用の一部を賄っています。なお、純損失を生じていますが、これは牟礼浄化苑用地の一部を高松市へ無償譲渡したことによるものです。

※1 実際に現金の出入がある項目の合計額  
 ※2 固定資産の取得に要した金額を、使用期間に応じて費用配分し、計上すること。  
 ※3 固定資産の取得に伴い交付された補助金などを、減価償却に応じて順次収益化すること。(現金収入は伴わない。)  
 ※4 平成28年4月1日付で香川県から香東川流域下水道の移管を受け、移管に伴う費用は借入金で賄ったため、収入・支出が増加した。